

舗装施工管理者技術講習会

日本道路建設業協会による平成23年度 舗装施工管理技術者の技術講習会が9月15日、名古屋市天白区の名城大学・天白キャンパスに於いて、240名余の参加で行われました。

講習会は、舗装施工管理技術者資格の登録更新者が主な対象で、最新の舗装技術の習得と技術向上を図ることを目的とし、8月から9月にかけて全国9か所で開催されました。

名古屋会場での講習に先駆け、道路建設業協会中部支部の瀧上彰恭技術委員長により「中部地方における舗装事業の現状」として、当地区で進む高規格道路の整備状況の

報告をされると共に、「日々進歩高度化して行く舗装技術に遅れをとることなく最新の技術を習得しなければならない。まさに今日がその場だ」と参加者に呼び掛けられました。



アスファルト舗装技術講習会を開催 道建協、アスファルト合材協会

アスファルト舗装技術に関する講習会が8月29日、名古屋市中区の名古屋ガーデンパレスホテルで開催された。この講習会は日本道路建設業協会中部支部(岩田裕美支部長)と愛知県アスファルト合材協会(川中喜雄会長)の共催で、当日は会員企業各社から約150人が出席した。

冒頭、あいさつで愛知県アスファルト合材協会の内藤秀樹技術管理委員会担当理事(中部土木(株)会長)が「震災復興への取り組みなど建設業は必要とされている。建設産業の技術の高さを証明するためにも講習会を有意義なものとし、技術の研鑽に努めていただきたい」と呼び掛けた。

講習会では、愛知工業大学工学部都市環境学科客員教授の金井道夫さん、国土交通省中部地方整備局道路部道路情報管理官の渥美智康さん、アスファルト混合物事前審査事務局の幸田正裕さん、日本アスファルト合材協会技術

部会の貫井武さんが講師となり、社会資本整備の課題、東日本大震災を踏まえた中部地方の社会資本整備などについて説明した。＝写真＝

